

金太郎と民間説話

鈴木菜穂

一、はじめに

論者は神奈川県南足柄市に生まれ育った。幼い頃から近くにある金太郎の遊び石などの話をよく聞いていた。そのため金太郎に興味を抱いて研究を始めた。金太郎というと足柄山を思い出す人が多いと思う。足柄山の金太郎は、その地域伝承と共に著名である。しかし、金太郎の伝承は足柄山に限らず各地に伝えられている。⁽¹⁾足柄山はそのうちの一つにすぎないと位置づけられると思う。そう考えることによって、新たな金太郎像が見えてくるのではないだろうか。

金太郎研究において民俗学上、大きな影響を与えたのは、高崎正秀の『金太郎誕生譚』⁽²⁾である。高崎は、金太郎誕生譚は加茂の別雷神誕生の説話と同一系統であり、三輪山式神婚説話の一変型であると述べている。金太郎の赤色や鉄を雷神信仰によって説明している。これに続いて、金属信仰などから金太郎について説明するものが多く出している。一方、野本寛一は『焼畑民俗文化論』の中で金太郎の

赤色は焼畑の火の神の象徴であり、鉄は焼畑のための木を伐採する大型斧で、山の獸などを従属させるのは焼畑の害獸を服従させているのだといい、金太郎伝説を焼畑と結びつけて説明している。また、大島建彦は「山姥と金太郎」⁽⁵⁾で金太郎伝説の根幹をなすのは、山姥が怪童を生み育てたことであると述べている。最近は、浮世絵や絵本などから金太郎像の変化の過程を探ろうとする動きが強くなっている。これまでの金太郎研究にあっては、金太郎と山姥の関係はあまり深く論じられていないかった。

しかし、各地に伝えられている金太郎の伝承を見ると、それらはみな金太郎は山姥の子であるといっている。地域によって山姥の呼び方は異なっているが、金太郎の母親である山姥についても多彩な話が伝えられている。また、山姥は神として神社などに祀られている。山姥がもつ豊穰性、靈力といった特別な力と金太郎との間に何らかの関係を見出すことができるのではないかだろうか。これらの二から、金太郎に関する民間説話を見ていく上で山姥の存在を無視することはできない。そこで今回は、金太郎とその母親である山姥

に焦点を当てて考えてみたい。

なお、金太郎や金時の名称があるが、幼年期のものについては内容の上からも同一ものと見做している。

二、金太郎

まず、金太郎についての民間説話を見ていく。金太郎に関する伝

承は表Aにまとめてある。金太郎が産まれたとか、育つたと伝えられる場所は各地に存在している。産湯をついた池や滝と伝えられるものが多くある。このように事物にまつわる話が多いのは、金太郎の実在を信じさせようとしたためであろう。

金太郎についての伝承は、石にまつわるもののが非常に多い。力石、手玉石、手まり石、金時岩、遊び石、金蓋石、宿り石、礫石というように各地で伝えられている。それらの多くは金太郎がその石を投げたり、持ち上げたりしたといわれており、金太郎が力持ちであつたことを示している。石に金太郎の足跡が残っていると伝える話も多い。長野県木曽郡南木曽町には次のような話がある。

という話もある。これも金時の力を示した話の一つである。

石投げというのは、古くは神話に遡ることもできる。『日本靈異記』上巻「雷の意を得て生ましめし子の強き力ある縁第三」にも小さ子が石の投げ比べをするという話がある。各地の神社には金太郎に関わらず力石が多くある。例えば、東京の深川にある富岡八幡宮には現在も力石がある。その辺りには江戸幕府に納める穀物の倉庫があり、荷役の人はその石を持ち上げることができ一人前と考えられた。また、力白慢の人がその石を持ち上げて競い合つたということである。金太郎が大きな石を投げたり、持ち上げたりしているのには、そのような背景があつたのである。

一方、山の動物にまつわるものも見られる。熊穴、金熊川といつたらナ。あんまり力いっぱいふんばったもんでは。両足が岩に

めり込んだ。今でも伊勢山となきびそ山のどこかにナア。そのときの足跡のあいた岩があるト。見たことはないがナアン。おばあさんのそのままおばあさんが話してくれたチュウヨ。

金時の力が非常に強かつたために岩に足跡が残っているというのである。また、

昔、金時がなきびそ山に住んでいたチュウ頃の話だがネ。あるとき金時が伊勢山となきびそ山に、ふんまたがつてナア。木曽川で魚釣つてたそな。でつかい魚が釣れたもんでは。金時がりきんで真赤になつて、重たい魚を釣り上げたんだつて。そしたらナ。あんまり力いっぱいふんばったもんでは。両足が岩に

たものもあるし、各地の口頭伝承では、金太郎は熊などの山の動物と相撲をとつて遊んだという話が伝えられている。これらの話からもやはり、金太郎が力持ちであったことが窺える。金太郎の人形を見ても、その強さを表現したものが多い。例えば、広島県三次市に江戸時代前期から伝わる土人形である三次人形にも金太郎の人形は四種類ある。熊あげ金太、熊のり金太、松びき金太、熊のみ金太の四種である。どれも金太郎の力を十分に表現している。浮世絵の金太郎絵を見ても、熊を投げたり、鯉を担いでいたりして、やはり金太郎の力を示しているものが多い。

また、各地にある金太郎の人形や浮世絵に描かれている金太郎には、全身真っ赤に塗られているものが多くある。金太郎の赤色は強さを示しているのではないだろうか。我が国では、古くから赤色の呪力が信じられてきた。赤い腰巻きをしていると蛇の入らない呪術になるとか、中風にかられないまじないになるというものがある。また、疱瘡神には赤い紙で折った熨斗を使ったり、赤糸を供えたりして、種痘した子供には赤い頭巾をかぶせるという習俗もある。丈夫な子に育つようにという願いを込めて赤子という名前を子供に付ける習俗もある。金太郎の赤色もやはり、強さを示したものと考えられる。

金太郎に関する伝承は石や山などの事物にまつわる話が多い。金

太郎を実在の人物のように語り伝えた人々の存在を認めることができ。浮世絵の金太郎絵は、毎年売り出されていた。^[10]川柳にも金太郎は多くよまれているし、絵本の類にも多く登場している。これら

のことから金太郎が各地の地域伝承をもとに広く漫透していたことがわかる。子供に強くたましく育つて欲しいという親の願いは、いつの時代も変わらぬものであるだろう。それが赤色の呪力とともに金太郎にうまく結びつき、金太郎に託されて各地で伝えられてきたと考えられる。

とにかく、金太郎の話が伝えられている地域はどこも市街地からかなり山奥に入ったところである。金太郎は山の奥深くで育ち、非常に力持ちであった点が強調されている。

三、山 姥

次に、金太郎の母親としての山姥についての民間説話を見ていく。山姥に関する伝承は表Bにまとめてある。山姥の伝承も石や山などの事物にまつわるものが多い。蝦夷穴、山姥洞、洞穴、洞窟といいうような山奥の洞窟に、山姥と金太郎が住んでいたと各地で伝えられている。洞窟は神が宿る場所として神聖視されることが多く、そのような場所に住んでいる山姥も特別な存在として考えられたのである。また、山姥が住んでいたという洞窟の見える地域では山姥に関する話が多く伝えられており、一方、その洞窟の見えない地域では山姥に関する話も少なくなっている。

静岡県藤枝市滝沢の八坂神社に伝わる田遊びには、孕五月女という演目がある。孕五月女が懐から子供（人形なのだが）を取り出して筵の上に置くという所作がある。この詞章に、

伊勢国のちうぜうわ（中将は）何を恋（乞い）にまいりたあ
やかさ（綾笠）きぬよなせによなさあよね（さ米）をこい
にまいりた

あべの奥の五月女ハ何おき（着）てまいりにふちつるこき
の（藤蔓小衣）にところつるおもよきにひかさ（檜笠）お
きてまいりた
らあらりらんりの小袴夜昼七日ぬう（縫う）たりやあらり
らんりのまちわ夕去りこそしやうよおそろゑこたにとちう
抜けに沢お下るとちう仏に。

とある。藤蔓小衣は藤の纖維で織った布のことである。それにトコ
ロの蔓を巻いて着たということなのだろう。他にも静岡県には山姥
が藤をさいて糸にしたり、藤の布を織ったりする話がある。浮世絵
には金太郎と山姥と一緒に描かれているものがたくさんある。その
山姥が、木の葉を綴つた着物を着ていることが多い。これらのこと
から、この田遊びの背景にあるものを考えると、金太郎を産んだ山
姥に思い至る。つまり、この田遊びに出てくる孕五月女は、山から
里に降りてきて、稻の豊作をもたらしてくれる山姥であると考え
られる。¹³⁾

金太郎の母親である山姥の民間説話を見ていくと、山姥の豊穣性
や靈力を示しているものが多い。山姥の呼び方は宮城県柴田郡村田
町では姥、長野県上水郡中条村、同北安曇郡坂村では大姥様、同小

県郡青木村では大姥様あるいは山姥様、島根県邑智郡石見町ではや
まんばあさん、高知県高岡郡日高村では山姥様というように各地で
異なっている。しかし、いずれの地域においても人々から神として
考えられ、神社や祠に祀られている。また、困っている時に出てき
て助けてくれる、幸福をもたらしてくれるというように伝えられて
いる。金太郎の母親である山姥は、悪いことは一つもない、よい山
姥と考えられているのである。多くの恵みをもたらしてくれる山と
いう空間に住む山姥に対する人々の意識が表れたものといえるので
はないだろうか。金太郎の母親としての山姥の特徴には、大きな地域
差があり、足柄山辺りを境として東と西に大きく分けられると思わ
れる。

まず、西の方から見ていく。西の方の山姥の特徴としては、作物
と関係があるのでないだろうか。先に挙げた静岡県藤枝市の滝沢
の田遊びに見られる孕五月女を山姥とすると、この山姥は稻作に大
きく関わっていることがわかる。また、その近くで毎晩の様に山婆
がやって来て藤をさいて糸にするのを手伝つたという話や、山婆は
藤の皮で布を織ることが上手で、山から出て来て布を織つたと
いう話があることから、稻作以外の作物にも山姥が関わっていると
いえる。¹⁴⁾

島根県邑智郡石見町でも山姥と稻作との関係が窺われる。

やまんばあさんのしゃもじゅうて、あつたがなあ。そのしゃも
じで、大きななしやもじがあるだが、それからなあ、それでご飯

を混ぜんしやりやあな、まあ、ちいと炊いたご飯が大きな釜
いっぱいできるだけなあ。その、その家（大石）になあ、田植
えに食べるご飯ができよつたゆうて、そげん話だがなあ。^[15]

このように、やまんばあさんと呼ばれる山姥は山から里に降りて
きて田植えを手伝つてくれたり、ご飯が増えるしゃもじをくれたり
する。また、やまんばあさんの米のとぎ汁が流れるところは稻ので
きが良いといわれている。同様な話が中国山地の各地で伝えられて
いる。江津市清見の梗の木山に住むやまんばあさんが、ご飯の増え
るしゃもじをくれたり、米のとぎ汁を流して水が尽きないようにし
てくれたりする話がある。^[16] また、邇摩郡温泉津町清水のお大師山の
やまんばあさんも、米のとぎ汁を流して水が尽きないようにしてく
れたり、播きもしない大根やごぼうができる話がある。^[17]
さらに、石見町の山姥は機織りが上手で、機織りを教えに来てくれ
たという話がある。^[18] 江津市の山姥にも、糸引きを手伝いに来てくれ
るという話があるし、^[19] 温泉津町の山姥にも、織りかけの布を織り上
げてくれたという話がある。これらの話から、山姥が米やその他の
作物に関してよいことをしてくれると考えられていることがわかる。

高知県高岡郡日高村の山姥様は、米を少し持つて来て餅をついて
くれるようにならね。山姥に餅についてあげると、その家は榮えると
いう話がある。同様な話は、高知県や愛媛県の四国山地の各地で伝
えられている。また、高知県土佐郡本川村では、男のところに老婆
がやつてきて言われた通りになると焼烟が簡単にできた、という話

がある。^[20] 山姥の声を聞くと山作のできがうんとよいという、という
話もある。同郡土佐山村には、稗煙を作っていた者の煙が、毎年豊
作続きで、刈つても刈つても刈り尽くせず、家運も繁昌する一方で
払つたところ、烟の中から老婆が半焼けになって飛んでいくのが見
えたという、という話もある。^[21] これらの話から、山姥は焼烟の作業
がうまくいくようにしてくれたり、作物が豊作であるようにしてく
れたりする神のように考えられていることがわかる。

これらを見ると西の方では、山姥は山から降りてきて豊作を
もたらしてくれたり、農作業を手伝つてくれたりして、作物との関
係が深いことに気づかされる。それぞれの土地で主要な作物に結び
つけて話が語られている。

長野県の各地で伝わる話にも興味深いものがある。山姥と金太郎
が山の中の洞窟に住んでおり、時々里に下りて酒を買って行く
というものである。長野県上水内郡中条村の話を次に挙げる。

大姥山の麓の田の入の酒屋に年老いた白髪の婆さんが五合ほど
入りそうな福利を持って酒買いに来た。「酒三升ほど入れてお
くらいい。」と言うので「こんなものに三升なんて入らねい。」と
言うと、「まあ、いいから入れてみてくんないして。」と言う。
ここで酒屋の主人が入れてみた。すると三升全部入ってしまった
ではないか。あまりのこととにびっくりした主人は、もしかして
大姥の神様ではないかと思つたとたん、かき消すように見えな

これらの話では、山姥は小さな徳利や樽を持って酒を買ひに来て（金太郎に買ひに行かせるというものもあるが）入りそうもないほどたくさんの酒を入れて買って行く。ここに山姥の不思議な力を人々が認め、それを語り伝えてることがわかる。その山姥がみな金太郎の母親であるといわれているのである。金太郎の母親に限らなければ、山姥の酒買ひの話は、群馬県や岐阜県にも伝えられている。

次に、東の方を見ていく。東の方の山姥の特徴としては、子供に關係があり、子供の神として考えられているのではないだろうか。宮城県柴田郡村田町では、山姥は金太郎を産むと乳神になり、乳の足りない人がお参りすると乳が出るようになるといわれている。

長野県小県郡青木村にも同様な話がある。ここでは山姥が田沢温泉の有乳湯につかって金太郎を産んだといわれており、その湯に入ると乳が出るようになる、あるいは、子宝に恵まれるといわれている。長野県上水内郡中条村では、大姥様と呼ばれる山姥は子供の疳の虫を封じてくれるといい、治ると虫切り鎌を倍にして返すといわれている。長野県北安曇郡八坂村の大姥様も同様に、子供の疳の虫を封じてくれ、治るとやはり鎌を倍にして返すといわれている。

これらを見てくると東の方では、山姥は子供の神としての性格が強いことがわかる。

このように、金太郎の母親である山姥の特徴は東西で大きく分かれ。東の方では、山姥が金太郎を産むことによって母親となり、子供の神として機能するようになる。西の方では、山姥が金太郎を産むことは田遊びの感染呪術のように作物の神として機能するようになると考えられる。いずれの地域においても山姥の豊穣性や靈力を認められる。足柄山周辺地域においては山姥の豊穣性や靈力を示す話をあまり聞くことができなかつた。しかし、静岡県駿東郡小山村には、かつて金時杉があり、その木の皮を安産のお守りにしたという話がある。また、神奈川県足柄下郡箱根町にある姥子温泉は眼病に効くという話もある。これらの話のように、金太郎の母親である山姥の力を示す片鱗のようなものは見られる。他の地域では山姥の力を示す話が多く見られるのだが、足柄山周辺地域では金太郎の話ばかりが強調され、山姥の方は影が薄くなっているようにも見受けられる。

また、金太郎に関係のない山姥伝承は全國各地で見られる。昔話の「牛方山姥」や「三枚の護符」、「食わざ女房」などに出てくる山姥は、人を取つて食おうとする恐ろしい山姥といえるだろう。これらの山姥には子を産むという話は伴われていない。一方、山姥が子を産むという話を伴つている場合には、人を取つて食うような恐ろしい面はほとんど出てこない。子を産むということは山姥の性質を考える上で重要な点である。山姥のお産に関しては、山姥がお産をする時に小屋を貸したり、水や食べ物を与えたり、お産の手伝いをしたというように、山姥に対して親切にすると、山姥が獣の獲物や富を授けてくれる、という話が各地に広く伝えられている。

四、金太郎と山姥

次に、金太郎と山姥の関係について考えてみたい。表A、Bからもわかるように、金太郎の話があるところには必ず山姥がその母親として出てくる。父親については、何も語られない場合もあるし、名前が出てきてもあまり詳しくは語られていない。金太郎にとっては母親の山姥の存在が重要であることがこのことからもわかる。

また、金太郎は成人後は名を改めて坂田金時になると伝えられている。これまでの金太郎研究にあっても、金太郎と坂田金時は一連のものとして考えられてきた。しかし、各地の口頭伝承においては、幼年期の金太郎の話と成人後の坂田金時の話は別々に語られている。一方、成人後の坂田金時は山姥と共に語られていない。そこで、坂田金時の話が伝承されている地域を見てみる。

富山県上新川郡大沢野町には、坂田金時の末裔という家があり、代々伝わっている坂田金時の掛け軸がある。鎧兜、刀、槍なども伝えられていたが現在は残っていないといふ。愛知県宝飯郡小坂井町には、坂田金時が東国に行く途中で立ち寄り、置いていったといふ念持仏がある。その念持仏がある寺の寺号は坂田金時になぞらえて坂田山東林寺といふ。また、その寺の北側に坂田金時を祀つ金時塚がある。また、地名にも坂田前、坂田後といふものがあり、坂田金時との関係が窺われる。岡山県勝田郡勝央町は、坂田金時の終焉の

地と伝えられている。栗柄神社は坂田金時を祀つた金時塚の上に建てたといわれている。塩瀧は、源頼光らが金時の葬儀の後にその滝の水で身を浄めたといわれている。このように、坂田金時の話には山姥は出てこないのである。金太郎と呼ばれる幼年期の話も伝えられていない。このことからも山姥は幼年期の金太郎と共に語られるものであり、母と子の関係が話を伝える上で重要な要素であったといえるのではないか。

それではなぜ、金太郎の母親が山姥でなければならなかつたのだろうか。金太郎という怪力の持ち主の誕生は普通の人間と同じであるはずがない。異常誕生の必要があつたといえるだろう。特別な力をもつ山姥が産んだ子であるからこそ金太郎も怪力をもち得たのだと考えられる。山の奥深くで育つ怪力の金太郎の母親としては、山姥以外には考えることはできなかつたのであろう。「ちょうどよく山の山姥」という昔話では、山姥の子は非常に力持ちで重い餅を簡単に運んでしまう。また、山姥は出産後の村人の親切に對する礼として村人が風邪を引かないようにしてくれ、さらには使つても減らない錦をくれる。これも山の奥深くで育つ怪力の子と豊穣性や靈力をもつ母親の山姥の話である。ここでも山中の母と子の関係が重要であるといえるだろう。

山姥が神として考えられているところが多く、その子である金太郎も神のように考えられていたともいえる。山姥の子が山の神になつたという話も多い。金太郎のように力持ちで強い男の子が一人、山中で生まれ育つという話は、熊野の本地などにも通じるものがあ

る。『神道集』巻第二「第六 熊野権現事」で、王子が熊野の山中で虎などに守られて育つ話は、金太郎が山の動物たちを従え、共に遊んだり、山姥が金太郎を育てたりするのと、もとは同じであると考えられる。

金太郎と山姥の話の背景には、山姥の豊穣性や靈力と金太郎の怪力との関係を見出すことができる。金太郎も山姥の子の話の一つのパターンであると考えられる。山の奥深くに育つ子が怪力をもつ時には、その母親の山姥が豊穣性や靈力といった特別な力をもつのである。金太郎の母親である山姥は、その豊穣性や靈力から各地の地域伝承と結びついて作物の神あるいは子供の神として機能するようになり、各地で伝えられてきたといえる。

五、おわりに

以上、金太郎に関する民間説話を山姥との関係を中心見てきた。各地の伝承から金太郎は足柄山だけのものではないことがわかる。

そして、それらの資料から、金太郎と山姥という母と子の関係が大きな鍵になっていることが読み取れる。山の奥深くに育つ子が怪力をもつ時には、その母親の山姥が豊穣性や靈力という特別な力をもつのである。金太郎が力持ちであるのは、特別な力をもつ山姥の子であるからであり、金太郎の母親は山姥でなければならなかつたといえる。金太郎の母親である山姥の話が各地の地域伝承と結びついて作物の神あるいは子供の神として機能するようになり伝承されて

きたのである。金太郎のように強くたくましく育つて欲しいという親の子に対する願いと結びついて各地で伝承されてきた話であるともいえる。

しかし、山姥の話は金太郎には関係なく全国各地に伝えられているものである。それらの山姥伝承を詳細に分析することによって、金太郎と山姥の関係ももつとはっきり現れてくるものと思う。その点については、今後の課題にしたい。

注

- (1) 高崎正秀は『金太郎誕生譚』で、大島建彦は「山姥と金太郎」でそれぞれ信州の金太郎伝承に言及している。しかし、いずれもその他の地域の伝承については述べていない。
- (2) 高崎正秀『金太郎誕生譚』(一九三七年 人文書院)。
- (3) 桜井満『伝説のふるさと』(一九七九年 日本書籍)、谷川健一『鍛冶屋の母』(一九七九年 思索社)、細谷藤策『古代英雄文学と鍛冶族』(一九八九年 桜楓社)など。
- (4) 野本寛一『煙草民俗文化論』(一九八四年 雄山閣出版)。
- (5) 大島建彦「山姥と金太郎」『天明文学——資料と研究』(一九七九年 東京堂出版)。
- (6) 鳥居フミ子「金太郎の誕生」東京女子大学『日本文学』第六十二号(一九八四年 東京女子大学学会日本文学部会)、「伝承と文芸——金太郎の誕生——」『東京女子大学紀要論集』第四十一卷第一号(一九九〇年 東京女子大学)など。

- (7) 小林俊彦「金時と山姥の話」『市史研究あしがら』第八号
(一九九六年 南足柄市)。
- (8) (7)に同じ。

- (9) 桂井和雄「赤色習俗考」『土佐民俗』第十七号(一九七〇年
土佐民俗学会)。

- (10) 桜川慈悲成『七福今年咄』(一八〇二年 永寿堂)には「清
長画の金太郎ねん／＼さしいだし申候処 御意にありおびたゝし
くすりいだし ありかた仕合に奉存候 當春も れいねんのとを
りさしいたし申候 御もとめ下されべく候」とある。

- (11) 野本寛一『海岸環境民俗論』(一九九五年 白水社)には
「わが国の信仰において洞窟が重要な役割を果たしてきたことは
周知の事実であるが、その実態に光が当てられているとは言いが
たい。洞窟は暗く奥深い。ここでもごく一部を瞥見するに過ぎな
い。洞窟は、古くは「いはや」と呼ばれ、住まいとしても使われ
たのであるが、信仰的には①死と葬の場、②他界への入口、③誕
生の場、④再生の場、といった機能を、現実的にも、伝承の上で
も負わされてきている。時にはこれらが複合し、おどろおどろし
く近寄りがたい場として意識されることもあるし、自己変革・再
生・復活のために参入しなければならない場ともなる。いずれに
せよ、洞窟の聖地性は否定できない。」とある。

- (12) 新井恒易『農と田遊びの研究』上巻(一九八一年 明治書
院)。
- (13) 野本寛一は『焼畑民俗文化論』で、この早乙女は山から田

に下つて豊穣をもたらす山の神であり、また水の神であるといい、
焼畑文化圏における女性山神の稻作文化圏への降臨であるとも
いっている。

- (14) 静岡県女子師範學校郷土研究會『静岡縣傳説昔話集』(一九
三四年 静岡谷島書店)。

- (15) 鈴木聞き書き 一九九七年三月(話者 女性 九十歳)。

- (16) 江津市誌編纂委員会編『江津市誌』(一九八二年 江津市)。

- (17) 温泉津町誌編さん委員会編『温泉津町の伝説』(一九七〇年
温泉津町教育委員会)。

- (18) 島根大学昔話研究会『島根県邑智郡石見町民話集II—妖怪
譚その他』(一九八六年 島根大学昔話研究会)。

- (19) (16)に同じ。

- (20) (17)に同じ。

- (21) (4)に同じ。

- (22) 桂井和雄『土佐山民俗誌』(一九五五年 高知市立市民図書
館)。

- (23) 鈴木聞き書き 一九九六年十月(話者 男性 八十一歳)。

- (24) 今村義孝『秋田むがしこ』(一九五九年 未来社)。

- (25) 長野県木曽郡南木曽町では、金太郎のことを神として考え
ている人の話を聞いた。

表A 金太郎

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
1 宮城県柴田郡 村田町	蝦夷穴	金太郎が産まれたところ。	姥ヶ森山にある。岩で二段になっていて中はかたなり広い。	鈴木聞き書き 1997. 3
	子守沢	姥が金太郎を子守して歩いたところ。	姥ヶ森山にある。	
	力石	金太郎が力を試した石。	足形のように見える跡があった。	
2 新潟県西頸城郡 青梅町	金時の手玉石	山姥が日向ぼっこをしているそばで、金時が遊んだ石。	金時のおもちゃ石ともいう。 (1)	
3 長野県上水内郡 中条町	金時の手まり石	金時が遊び道具にした石。		
	金太郎と山姥の 絵		虫倉神社の宝物。	鈴木聞き書き 1996. 10
	金太郎と山姥の 絵馬		親沢の虫倉社の天井に描かれている。	
4 長野県北安曇郡 八坂村	洞窟	金太郎と大姥様が住んでいたところ。	大姥山にある。幅約30m、高さ約10m、奥行き約6mもある大穴。	鈴木聞き書き 1996. 8
	石のつぐら	金太郎が入れられた。	大姥山の洞窟の横の方にある。	
	熊穴	金太郎が熊と遊んだところ。		
	初産池	金太郎が産湯をつかった池。		
	金熊川	金太郎が熊と遊んだところ。		
5 長野県小県郡 青木村	有乳湯	山姥が陽治に来て、金太郎を産んだところ。	田沢温泉。	鈴木聞き書き 1997. 5
6 長野県木曾郡 南木曾町	南木曾岳	金時と山姥が住んでいた山。	岳、金時山ともいう。	鈴木聞き書き 1996. 8
	洞窟	金時と山姥が住んでいたところ。	南木曾岳にある。大きな岩が重なっていて中はかなり広い。	
	金時岩		南木曾岳の頂上の湿地帯のところにある。	

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
6 長野県木曽郡 南木曽町	金時の産湯の池 金時の井戸	金時が産湯をつかった池。 金時が遊んだ広場。	南木曽岳の頂上にある。直角で約30mの深さの大 きな穴。 南木曽岳の頂上にある。	
7 神奈川県南足柄市	金時の足跡 金時の足跡 金太郎の生家跡 夕日の滝	金時が遊んだ広場。 金時は急ぐ時には飛んで帰ったので、足跡は 方々にあるという。 金太郎が産まれたところ。 金太郎が産湯をつかった滝。	大妻籠にある大きな岩にある。 闇にある岩にある。金時の足はあっこ（かかと） で落ちるから丸い足跡になる。 三留野にある大きな石にあった。 四方長者屋敷跡。	
8 神奈川県足柄下郡 箱根町	金太郎の遊び石 金蓋石 金時山 金時神社 金時つまり石	金太郎が小さい時によじ登ったり、飛び降りたりして遊んだ石。 金太郎が遊んだ岩屋の扉になっていた大きな石。 金太郎が遊んだ山。 金時を祀っている。 金時を祀っている。	金太郎の生家跡の向かい側にある。一つは太鼓の形をしているので太鼓石、もう一つは兔の形をしているので兔石といわれている。 猪鼻岳の近くにあった。 奥の院には大きな鍬が奉納されている。 直径5、6mの大石。 直径約10mの巨石で片側がえぐられている。10畳ほどの広さがあったという。	鎌木聞き書き 1995. 8
9 静岡県駿東郡 小山町	姥子温泉 坂田屋敷 産湯の七滝 金時の足跡石 礫石	金太郎が眼病を患い湯治した温泉。 金太郎が産まれたところ。 金太郎の産湯を汲んだ滝。 金太郎が踏み抜いた石。 金太郎が投げた石。	山姥の眼病を湯治したともいう。 金時屋敷ともいう。現在は金時公園になっている。 チヨロリ七滝ともいう。 踏み抜き石ともいう。石には足跡がある。 足柄侍にある。	鎌木聞き書き 1995. 8

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
9 静岡県御殿場市	子産田 妙ヶ沢 産湯池	山姥が金太郎を産んだところ。 山姥が金太郎を産んだところ。 この池の水を金太郎の産湯に使った。	現在は沼田小棚自然公園になっている。	(3) 鈴木聞き書き 1995. 8
10 島根県邑智郡 石見町	沼田の山の金太郎の絵額 金時の力石 姥子堂	沼田の山の金太郎の絵額 沼田の山の金太郎の力石 金太郎が山姥とよく来た。	沼田子之神社に奉納されている。金太郎と動物たちが描かれている。 沼田子之神社の境内にある。	
11 愛媛県八幡浜市	おろし子山 酒井の家 金太郎の絵馬	おろし子山 やまんばあさんが男の子を産んで、その子をおろしたところ。 やまんばあさんが金時のおしおを洗った池があつた。	男の子は非常に力が強かった。	鈴木聞き書き 1997. 3
12 高知県高岡郡 日高村	(昔話) 山姥洞 力石	山姥の子、金太郎は山中で動物を友として遊ぶ。 金太郎が山姥と住んでいたところ。 金太郎が目よりも高く差し上げて投げた石。	諏訪神社にある。金太郎と山姥が描かれている。 九頭大滝山の頂にある。 山姥の洞窟から10mほど離れた巨岩の上に餅を重ねたように乗っている。重さが800kgの卵形の大石。	(4) 鈴木聞き書き 1996. 9 (5)

表B 山 姥

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
1 宮城県柴田郡 村田町	蝦夷穴 子守沢 姥の手掛け石	姥が金太郎を産んだところ。 姥が金太郎を子守して歩いたところ。 金太郎がお腹の中にいる時に、姥が水を飲もうとして手をついた跡がある石。	姥ヶ森山にある。 姥ヶ森山にある。	鈴木聞き書き 1997. 3
2 新潟県西頸城郡 青海町	山姥洞	山姥が住んでいたところ。	白鳥山にある。幅約2m、高さ約2.5m、奥行き約4m。	(1)

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
新潟県西頸城郡 青柳町	山姥の踊り岩	この岩の上で山姥が舞い踊った。	ほほ五角形で表面が平らな大きな岩。	
	日向ぼっこ岩	山姥が日向ぼっこをした岩。	のみ取り岩、しらみ取り岩ともいう。	
	山姥神社	時折、人々に金を分け与えたりしたので山姥様として祠がつくられた。	(1)	
長野県上水内郡 中条村	押み岩	人々が毎朝その岩の上に立って山姥様に無事息災を祈った。	(2)	
	虫倉山	大姥様が住んでいた山。山に巣がたてば、大姥様に孫ができたしるだといふ。	金木書き書き 1996. 10	
	洞穴	大姥様が住んでいたところ。	はじめの洞穴を今穴、後の方を元穴といふ。	
4 長野県北安曇郡 八坂村	大姥大神	子供を守護する神様。	七つの虫倉社がある。虫切り鎌が奉納されている。	
	山姥の像		地京原の虫倉社にある。丈約25cm。一刀彫り。きれいな頭をしている。	
	山姥と金太郎の掛け軸	山姥と金太郎の絵馬	虫倉神社の宝物。	
5 長野県小県郡 青木村	山姥と金太郎の絵馬	山姥と金太郎の絵馬	穏沢の虫倉社の天井に描かれている。	
	大姥山	大姥様が住んでいた山。	伊折の虫倉社に奉納されている。	
	洞窟	大姥様が住んでいたところ。大姥様が金太郎を産んだ時、岩屋の前に金瘤の帶やいろいろのものが掛かったといふ。	金時山ともいいう。1006m。	
6 長野県木曽郡 南木曽町	大姥神社	子供の虫切りに効く。	大姥山にある。幅約30m、高さ約10m、奥行き約6mもある大穴。	金木書き書き 1996. 8
	有乳湯	山姥が湯治に来て、金太郎を産んだところ。	たくさんの虫切り鎌が奉納されている。	
	大姥様の像		子宝の湯、子持ちの湯、ほらみ湯ともいいう。殿戸地区の日吉神社の裏山にある。片膝立ての石像物。	金木書き書き 1997. 5
	南木曽岳	山姥と金時が住んでいた山。	岳、金時山ともいいう。	金木書き書き 1996. 8

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
6 長野県木曽郡 南木曽町	洞窟 山姥のお化粧の 鏡池	山姥と金時が住んでいたところ。 山姥の眼病を治したといい、 大きな岩が重なっていて中はか なり広い。	南木曽岳にある。大きな岩が重なっていて中はか なり広い。 小さな丸い池。	
7 神奈川県南足柄市	山姥の像	金太郎の母親である。	地蔵堂の御堂にある。木像。	鈴木聞き書き 1995. 8
8 神奈川県足柄下郡箱根町	姥子温泉 山姥の像	金太郎が眼病を患い湯治した温泉。 山姥の眼病を湯治したともいいう。	金太郎が眼病を患い湯治したともいいう。	鈴木聞き書き 1995. 8
9 静岡県駿東郡 小山町	遊女の滝 あさかえ湯 姥の腰掛け石	山姥が水垢離をして金太郎の健康を祈願した滝。 姥が腰の身を垂らすために通った温泉。 金太郎の帰途を出迎えて、山姥が腰をかけて 待っていた石。	山姥が水垢離をして金太郎の健康を祈願した滝。 姥が腰の身を垂らすために通った温泉。 金太郎の帰途を出迎えて、山姥が腰をかけて 待っていた石。	鈴木聞き書き 1995. 8
10 静岡県御殿場市	妙ヶ沢 産湯池 姥子堂	山姥が金太郎を産んだところ。 この池の水を金太郎の産湯に使った。 山姥と金太郎がよく来た。	現在は沼田小棚自然公園になっている。	鈴木聞き書き 1995. 8
11 島根県邑智郡 石見町	原山 洞窟 おろし子山 酒井の家 金太郎の絵馬 わらづと	やまんばあさんが住んでいた山。 やまんばあさんが住んでいたところ。 やまんばあさんが男の子を一人産んで、その子 をおろしていった山。 やまんばあさんが金時のおしめを洗った池が あった。 諏訪神社にある。山姥と金太郎が描かれている。 やまんばあさんが先大石の家に置いていったも の。	布引山ともいいう。888m。 石の畳を敷いたようになっている。入口は狭いが、 中はかなり広い。 やまんばあさんはその後、三瓶山に逃げたという。	鈴木聞き書き 1997. 3

伝承地	事 物	内 容	備 考	資料名
12 愛媛県八幡浜市 (昔話)		山中で動物を友として遊ぶ金太郎は、山姥の子である。		(4) 鈴木聞き書き 1996. 9
13 高知県高岡郡 日高村	山姥洞 山姥温泉	山姥と金太郎が住んでいたところ。 山姥が朝に夕に浸っていた温泉。山姥はこの温泉の水を日常の炊きに使っていた。	丸頭大滝山にある。	(5)

注

- (1) 渡邊剛「越後 上路の伝説「山姥」と謡曲「山姥」について」『市史研究あしがら』第8号(1996年 南足柄市)
- (2) 國學院大學説話研究会「新潟県西頸城郡青梅町 夏季再訪」調査カード 1991年8月19日～22日
- (3) 松尾四郎『史話と伝説 富士山麓の巻』(1958年 松尾書店)
- (4) 和田良輔『伊予のとんと話』(1976年 講談社)
- (5) 明神健太郎『加茂村誌』(1977年 加茂村誌編集委員会)
- (6) 島根大学昔話研究会『島根県邑智郡石見町民話集Ⅱ—妖怪譚その他—』(1986年 島根大学昔話研究会)

左記

本稿は、日本口承文獻學會第十一回大会(1996年)で発表した抄稿版成稿したのである。多くの方からの貴重なご教示を賜った。
感謝申上する。

(アーチー・たけし／國學院大學大井院)